国立大学法人 福井大学
地域創生推進本部
附属嶺南地域共創センター

地域と共に創る、福井大学の「地域共創」 vol.12 令和8年10月15日発行

嶺南地域共創センター ニュースレター

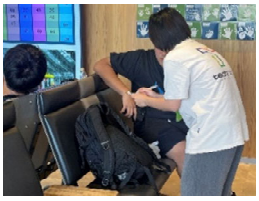
小浜市の観光と回遊促進を探る
～学生が現地調査を行い、課題解決策を市職員らに提言～

本学の学生が令和8年8月18日から3日間にわたり小浜市で現地調査を実施し、最終日には小浜市役所の職員らを前に、地域課題の解決に向けた提案を行う報告会を開催しました。

この取り組みは、本学の地域創生推進本部附属創生人材センターが、価値創造型PBL（問題解決型学習）の一環として行ったものです。「若狭地域におけるドラマ放映後の観光入込数の変化および観光客の消費行動」と「小浜市川崎エリア内における回遊促進の検討」をテーマに、本学の学部・大学院生15名が参加。市職員による講義をはじめ、「サバ缶工場見学」や「箸研ぎ体験」の体験に加え、4つのグループに分かれて、観光客へのアンケート調査などを行いました。

最終日に行われた報告会では、各グループがアンケート結果を分析し、市職員へ提言を行いました。今春放送された小浜市が舞台のドラマ「サバ缶、宇宙へ行く」の効果検証を行ったグループからは、「ドラマ視聴者は未視聴者と比べてサバ缶の購入数が多く、約10倍の差がある。ドラマ視聴者は市内の観光地等への訪問数が多く、事前に調べた情報が多いほど、周遊する傾向にある。」との分析結果を提示。その上で、ドラマで話題になったサバ缶の購入をきっかけとして、市内の食事や滞在へと繋げるため、“サバ缶に次の目的地を書き込んで周遊の目的を作る”といったアイディアを提案しました。市職員からは、「ドラマを通じた知名度向上を実感している。来訪者は関西及び中京圏在住の50代の日本人が多い傾向にあるが、客層の拡大に向けて、ドラマを切り口とした取り組みを今後一緒に考えていきたい。」などの感想が寄せられました。

参加した学生は、「福井県に住んでいるが、今回の活動で初めて小浜に来た。インターネットでも小浜の様々な情報を得ることができるが、実際に足を動かして現地で学べることが多くあった。」と振り返りました。来年度末の最終報告会に向けて、引き続き調査を深めていきます。


学生活動調査の様子


市職員らに提言

大学と地域が共創する無住集落マネジメント
～嶺南地域共創センターが進める3つの取り組み～

本学嶺南地域共創センターの山形教員が、無住集落である小浜市上根来（かみねごり）地区において集落の持続可能性向上を目的とした研究と実践を進めています。将来的に多くの集落が限界集落化や無住化することが予想される中、地域コミュニティや行政だけでなく、「大学」が関わることで新たな価値を生み出し続け、持続していける仕組みを目指し、学内外の多様な専門分野と連携し現在は主に3つの取り組みを展開しています（今後も多角的に増やしていく予定です）。

①地域植物資源（アブラギリ）の活用とDX技術の融合（地域創生推進本部 岡本助教）

NPO法人「WAC!おばま」と連携してアブラギリの花を利用したハチミツ作りの支援を実施。福井大学はセンサー等を用いた鳥獣対策を導入予定です。

②地域の取組（雪室）支援（建築建設工学講座　寺崎准教授・カーボンニュートラル本部　鈴木特命助教）

上根来の元住民組織「百里会」が10年以上にわたって取り組む「雪室」をより持続的かつ今後の利活用に繋げるため大野で雪室に取り組む先生方と開発元である酒井化学工業様の協力を得て、「雪室シート」を導入します。

③雪室を起点にした産学共創（福井県立大学　海洋生物資源学部）

雪室の地域資源を生かした経済循環の創出として、福井県立大学の有志とともに「雪室熟成魚」の開発に取り組んでいます。福井県のチャレンジプランコンテストにも採択され、地元事業者との連携や店舗提供を見据えた新たな特産品化に挑戦しています。


雪室づくりの様子

【発行・取材】福井大学 地域創生推進本部 附属嶺南地域共創センター
【敦賀サイト】〒914-0055 福井県敦賀市鉄輪町1－3－33 福井大学敦賀キャンパス内
【小浜サイト】〒917-0069 福井県小浜市小浜白鬚112 白鬚業務棟3階

ホームページはこちらから→